

## 観光開発と「民族文化」

—中国南西部貴州省雷山県ミャオ族の「苗年」(お正月)をめぐって—

法政大学国際文化学部客員研究員 陶 冶

中国貴州省黔东南雷山県に居住するミャオ族の二つの支系(「短裙苗」と「長裙苗」)のお正月は、それぞれ旧暦の10月「辰日」と「卯日」から、13日間を隔て一回ごとで連続3回を祝う。「短裙苗」の場合、村によって、旧暦10月第一の辰日を年越しの日とし、また旧暦11月の第一の辰日、旧暦12月30日の三つの日(三つの期日は、現地語で「ノンニュゲ」、「ノンニュデヨン」、「ノンニュデュウ」と呼ばれ、「頭の年」、「半ばの年」、「尾の年」の意味)を各々独自に重視し、互いにずらしてノンニュウ(年を食う)の行事を行う。その期間中の一連の行事は、ガノウ人の村落社会における父系の親族集団の内部の統合と、親族集団間と村の間の通婚関係の維持・結合を支えることがわかる。

しかし、近年において県の町では、正月のノンニュウの期間中の「ノンニュゲ」(頭の年)の期日の前後、県政府の主催による「苗年文化節」は、西暦11月11日から20日までの間に行なわれ、「苗年文化週」と呼ばれる行事が定着している。「苗年文化観光節」の発端には、2000年の国際観光年と21世紀を意識して、黔东南地域で民衆の行事に大々的に政府が介入して観光開発のブームとする背景がある。2000年11月に雷山県政府が観光客を誘致するために、「苗年節」と名づけた行事であった。当時、一回の行事で県の年間の財政収入の10%近い金額を使った。2001年は、県の財政困難のために、行事を中断したが、国の「西部大開発」という経済発展の戦略を実施することに伴い、雷山県は「旅遊興県」という観光開発の政策を定め、2002年の11月に、「苗年文化節」と名称を変えて再び発足した。その際、一部の人は、対外的な観光宣伝と観光客誘致の便利を図って、観光の季節に合わせる理由で、公暦初頭の「国慶節」の「黄金週」にすべきだと主張し、現地では「民俗に近寄せるか、ゴールデンウィークに近寄せるか」という論争を起こしていた。2002年の「苗年文化節」が終わってから、「雷山県苗学会」は、民族習慣を考慮する必要上、1990年から2050年の間の60年間の暦日を調べて、旧暦10月上旬の「卯日」のほぼ半分近くが西暦の11月11日から20日の間に当たるので、「苗年文化節」の期日は毎年公暦11月11日—20日の間に定めるべきだと、「民族宗教事務局」と「旅遊事業局」を通して県政府に提言した。その後、2003年から「苗年文化節」は、毎年公暦の11月11日から20日の間に行なわれるようになって、現在まで続いている。「苗年文化節」は、当初は単純に観光客を誘致する目的であったが、ミャオ族の文化の展示を利用しながら、地域経済を活性化する方向へと広がっている。行事活動の項目は、盛大なパレードと祝賀会及び闘牛の会などの行事を行うだけでなく、県域内の幾つかの代表的村落(西江鎮、郎徳鎮、大塘郷新橋村など)でのノンニュウの行事も活動の項目として増加された。また、外国との文化交流が導入されたこともある。節日の期間中には、中国の国内だけでなく、外国からの観光客が沢山訪れている。

る。この期間中は、雷山県域内外の多くの村落から人々は県城に集まってくる。また、主な行事は、ミャオ族の文化事項を主体としながら、国家の式典・項目の形式と結合しており、経済活動と直接に連携することが主要な構成部分であり、目的ともなっている。

一方、村落では、毎年各村々のノンニョウの開始が、従来の旧暦の10月「辰日」や「卯日」でなく、「苗年文化週」の初日となる様相は見られない。しかし、「ノンニョウ」の行事が国家イデオロギーと観光開発の政策による浸透される中、行事自体を従来の形式とは変わった形に変容させる側面があり、イベント化は進めている。また、国家イデオロギーが村落の儀礼に浸透し、流用されていく現状に対しての村人の反応は非常に意味深い。村人、特に文化大革命の時期に抑制された宗教的職能者アシャンとルガン（寨老）は、最初は懐疑的であったが次第に協力を試行する者、これと対照的に積極的に参与する者まで見られる。公暦の「苗年文化週」に対する見方が分裂し、動揺しているようである。観光開発による地域経済の発展の中、市場原理による村落の間でもミャオ族の下位集団間（「短裙苗」と「長裙苗」）でも競争することが見られる。

このように、「苗年文化節」は、市場経済化に伴う観光開発の土俵上に置かれ、町と村落の葛藤の関係が続く中、行事の時間から項目まで、儀礼そのものや儀礼の要素を含んだ文化事項を、国家が入植、流用、借用することによって、動揺ないし競争し合う主体によって「展示」し「演出」され、「民族文化」として「表象化」されている。このような新たな文化形式を創出する中、「貧困」を脱出するマイノリティーの無力と従属性が見えてくる上、「民族文化」が誰のものかは問われている。